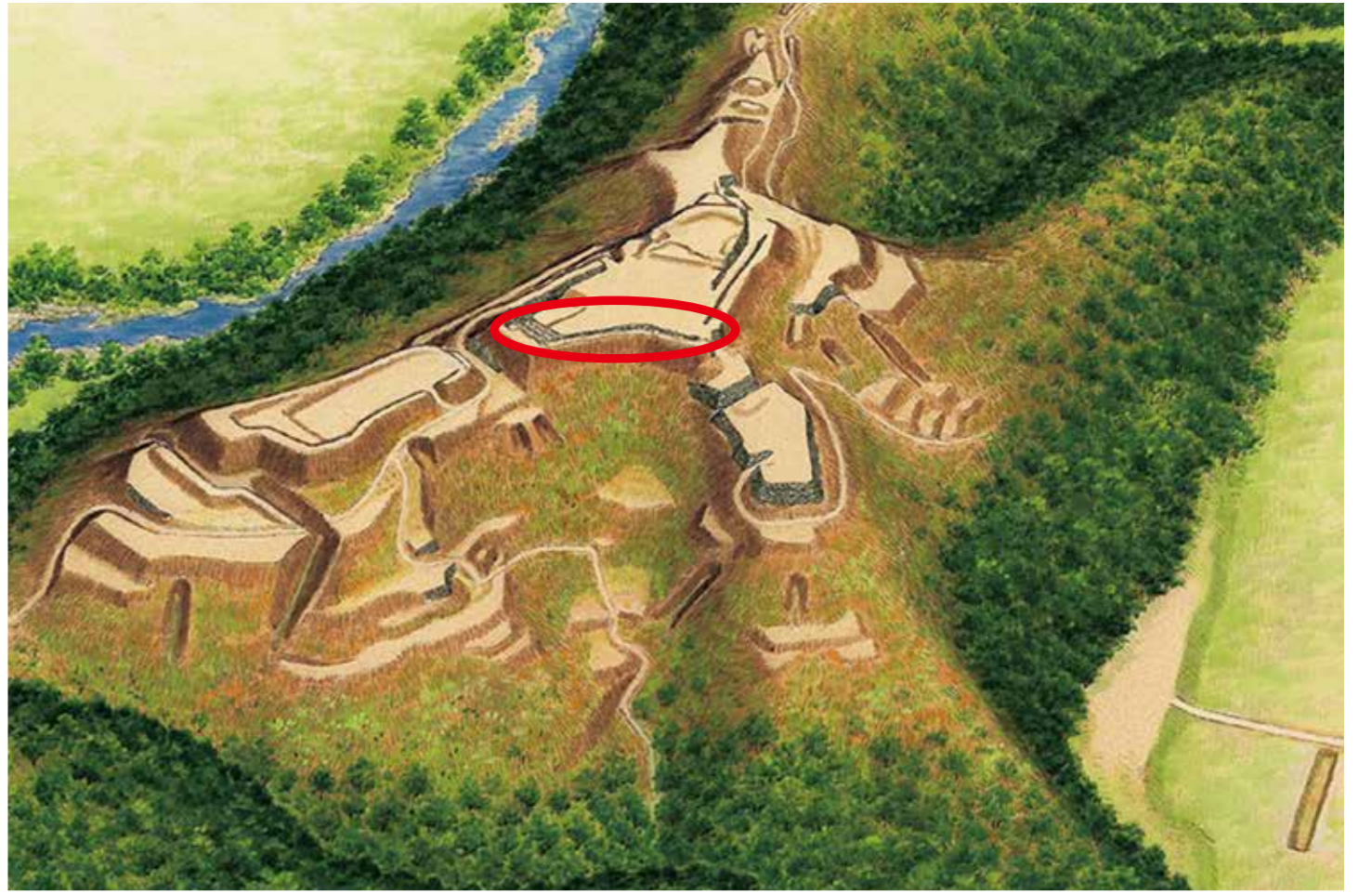
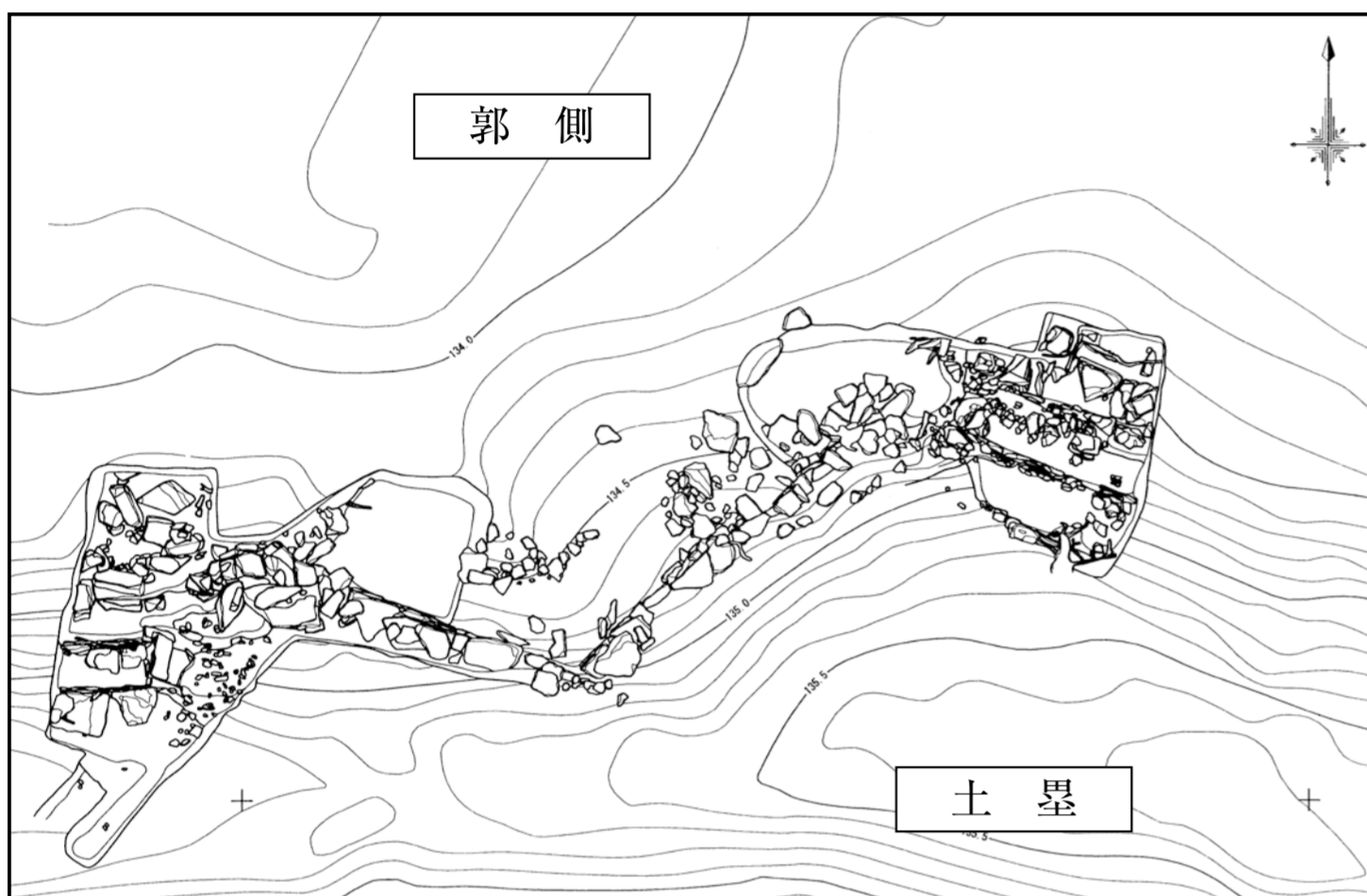


郭1 (本郭) 石積み遺構

現在は埋め戻してありますが、南虎口から東虎口を結ぶ土塁の内側には、石積み遺構が普請されていることが、調査によりわかりました。



▲ 本郭東腰郭石垣位置 (赤丸部分)



▲ 本郭石積み遺構平面図

この城の地山に由来する結晶片岩の石材を使用し部分的に折れをもち、雛壇のように高さ30センチ前後で三段に積みあげていて一見、近世城郭の雁木がんぎのような形態となります。折れの部分の石裏には結晶片岩の碎石がみられ近世城郭の厚い裏込め程ではないですが排水の措置が施されています。



▲ 本郭石積み遺構 (東から)



▲ 本郭石積み遺構 (西から)



▲ 石積み遺構裏碎石 (赤線部分)

遺物は、瀬戸美濃編年の大窯2～3期前半の徳利片と在地産の角火鉢片が出土し、この点から石積み遺構は戦国時代後期 (16世紀中頃から後半) ものと想定され江戸時代の改修は受けていないようです。この石積み遺構の類例は、埼玉県寄居町鉢形城跡伝秩父曲輪や群馬県高崎市みのわじょうの箕輪城跡などにあり戦国時代の山城の様子を伝える貴重な遺構です。 (ときがわ町教育委員会)